



基本的なコール処理

この章では、コールの発信、応答、転送、および会議コールなど、基本的なコール処理のタスクについて説明します。これらのタスクを実行するために使用する標準機能は、ほとんどの電話機システムで利用できます。







ビデオ コールを発信する前に

ビデオ コールを発信する前に、自分がカメラの撮影範囲に入っていること、および照明の状態が良好であることを確認してください。

目的	操作
自分のビデオ映像を表示する	カメラからレンズキャップを外します。自分のビデオ映像を表示するには、事前に  (セルフ ビュー ボタン) を押します。
カメラを調節する	カメラの傾きと焦点は手動で調節できます。傾きを調節するには、カメラを上下に傾けます。焦点を合わせるには、カメラのレンズを回します。
カメラの明るさを調節する	明るさを調節するには、  (明るさボタン) を押します。

ビデオ コールの発信

別のビデオ電話機にコールを発信する場合、そのコールは自動的にビデオ コールとして設定され、接続と同時に着信者のビデオ映像がスクリーンに表示されます。ビデオ コールを発信するには、いくつかのオプションのいずれかを使用して、番号をダイヤルする前または後にオフフックにします。

目的	操作
オフフックでダイヤルする	<p>ハンドセットを受け台から取り上げると、コールメニューが表示されます。ビデオ番号または電話番号をダイヤルし、コールが接続されるのを待ちます。</p>
オンフックでダイヤルする (ダイヤルトーンなし)	<p>番号キーでビデオ番号または電話番号を入力します。</p> <p>その後、コールを発信するために、次のいずれかの操作を実行してオフフックにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハンドセットを取り上げる。 •  (スピーカ ボタン) または  (ヘッドセット ボタン) を押す。 • Dial を押す。
スピーカフォンを使用して ダイヤルする	<p>New Call を押し、ビデオ番号または電話番号を入力します。あるいは、ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行う前または後に、 (スピーカ ボタン) を押してもかまいません。</p> <p>ハンドセットが受け台に置かれていて、 (ヘッドセット ボタン) が点灯していないときに電話番号をダイヤルすると、通常はスピーカフォンモードが自動的に有効になります。Redial を押した場合や短縮ダイヤルを使用した場合も同様です。</p>
最後にダイヤルした電話番号に リダイヤルする	<p>Redial を押します。別の回線を使用するには、 (回線ボタン) を押し、回線を選択した後に Redial を押します。</p>
履歴からダイヤルする	<p> (ディレクトリ ボタン) > Missed Calls、Received Calls、または Placed Calls を選択します。リストからダイヤルするには、その番号を押すかまたはスクロールして選択し、オフフックにします。</p> <p>ダイヤルする前にプレフィックスやその他の数字を番号に追加するには、EditDial を押します。</p>

目的	操作
電話機の社内ディレクトリからダイヤルする	 (ディレクトリ ボタン) > Corporate Directory を選択します (名前は異なる場合があります)。キーパッドで文字を入力して、リストを検索します。名前の一部でも検索できます。リストからダイヤルするには、その番号を押すかまたはスクロールして選択し、オフフックにします。
別のコールがアクティブなときにコールを発信する	Hold を押します。次に、 New Call を押します。その後、ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行います。
ヘッドセットを使用してダイヤルする	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">  (ヘッドセット ボタン) が点灯していない場合は、ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行う前または後にヘッドセット ボタンを押します。  (ヘッドセット ボタン) が点灯している場合は、New Call、Redial を押します。必要に応じて電話番号を入力します。
話し中または呼び出し中の内線が応対可能になったときに通知を受信する	電話番号にコールし、ビジー音または呼出音が聞こえているときに CallBack を押します。切断します。内線が応対可能になると、電話機にメッセージが表示されます。この電話番号へのコールバックは自動的に行われなため、コールを発信する必要があります。コールバックは特別な機能のため、システム管理者に設定を依頼します。
セカンダリ回線でダイヤルする	アクティブ回線は、ビデオ スクリーンの上部に示されます。番号をダイヤルする前に、  (回線ボタン) を押し、使用する回線を選択します。
短縮ダイヤルを使用してダイヤルする	 (回線ボタン) を押し、短縮ダイヤルを選択します。選択された短縮ダイヤルに電話機からコールが発信されます。詳細については、P. 42 の「短縮ダイヤル番号の設定」を参照してください。
プライオリティ (Precedence) コールを発信する	電話番号の前に、システム管理者から提供された MLPP アクセス番号を入力します。詳細については、P. 37 の「重要なコールの優先順位付け」を参照してください。

ヒント

電話番号を間違えて入力した場合は、<< またはキャンセル ボタンを押して数値を消去します。番号内を移動するには、右または左のナビゲーション ボタンを使用します。ダイヤル操作を中止するには、**Cancel** を押します。



ビデオ コールへの応答

電話コールに応答するのと同じ方法でビデオ コールに応答し、オフフックにします。次の表に詳細を示します。

目的	操作
ハンドセットを使用しているときに応答する	ハンドセットを受け台から取り上げて着信コールに応答します。
ヘッドセットを使用しているときに応答する	 (ヘッドセット ボタン) が点灯していない場合は、ヘッドセット ボタンを押します。  (ヘッドセット ボタン) がすでに点灯している場合は、 Answer を押します。
スピーカフォンで応答する	 (スピーカ ボタン)、 Answer を押します。
接続コールから切り替えて呼び出し中のコールに応答する	Answer を押します。この操作により、新しいコールへの応答と、最初のコールの保留が自動的に行われます。詳細については、P. 25 の「コールの保留と復帰」を参照してください。
呼出音が 1 ～ 2 回鳴った後で着信コールを自動的に接続するように電話機を設定する	自動応答機能の設定をシステム管理者に依頼します。詳細については、P. 39 の「ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答」を参照してください。
別の電話機（会議室の電話機など）で保留状態になっているコールを自分で取得するか、または他の人が取得できるようにする	コール パークを使用します。P. 33 の「パークされているコールの保存と取得」を参照してください。
自分の電話機を使用して別の電話機で鳴っているコールに応答する	コール ピックアップを使用します。P. 33 の「呼び出し中のコールを自分の電話機にリダイレクトする」を参照してください。
プライオリティ コールに応答する	現在のコールを切断して Answer を押します。P. 37 の「重要なコールの優先順位付け」を参照してください。
着信コールをボイス メッセージ システムに直接送信する	iDivert を押します。着信コールがボイス メッセージ グリーティングに自動転送されます。

ビデオ コールの終了

電話コールを終了するのと同じ方法でビデオ コールに終了し、切断します。次の表に詳細を示します。


目的	操作
ハンドセットを使用しているときに切断する	ハンドセットを受け台に戻すか、 EndCall を押します。
ヘッドセットを使用しているときに切断する	 (ヘッドセット ボタン) が点灯している場合は、ヘッドセット ボタンを押します。ヘッドセット モードをアクティブにしておく場合は、 EndCall を押します。切断した後もボタンが点灯した状態になります。
スピーカフォンを使用しているときに切断する	 (ヘッドセット ボタン) または EndCall を押します。
複数のコールがある場合に 1 つのコールだけを切断する	EndCall を押します。必要に応じて、コールの保留を解除しておきます。

電話コール

電話番号をダイヤルすると、そのコールは自動的に電話コールとして設定されます。電話コールを発信するには、ビデオ コールに関する説明 (P. 21 の「ビデオ コールの発信」を参照) と同じオプションのいずれかを使用して、番号をダイヤルする前または後にオフフックにします。

コールの保留と復帰

アクティブとなり得るコールは常に 1 つに限定されるので、他のコールはすべて自動的に保留状態になります。






目的	操作
コールを保留にする	保留状態にするコールが強調表示されていることを確認し、 Hold を押します。
コールの保留を解除する	保留を解除するコールが強調表示されていることを確認し、 Resume を押します。
複数の回線で複数のコールが保留状態になっている場合に、そのうちのいずれかのコールの保留を解除する	 (回線ボタン) を押し、復帰するコールが存在する回線を選択します。必要に応じて、保留を解除するコールが強調表示されていることを確認し、 Resume を押します。

ヒント

コールが保留状態になっているとき、通常は音楽やビープ音が流れます。そのため、会議コールは保留にしないでください。


発信ビデオ映像の表示

自分の発信ビデオ映像（自分自身の映像）を表示するには、セルフ ビューまたは子画面（PiP）を使用します。セルフ ビューでは、発信映像はフルスクリーンで表示されます。子画面（PiP）では、発信映像は子画面に表示されます。また、コール中に着信映像が大きい方の画面に表示されるため、着信映像と発信映像の両方を表示できます。セルフ ビューと子画面（PiP）は、コール中でない場合およびビデオ コール中の場合のどちらでも使用できます。

目的	操作
発信映像をフルスクリーンで表示する	 （セルフ ビュー ボタン）を押します。もとに戻すには、もう一度  （セルフ ビュー ボタン）を押します。
発信映像を子画面に表示する	 （子画面ボタン）を押します。
子画面（PiP）をスクリーンの別の隅に移動する	子画面（PiP）をスクリーンの他の3つの隅に移動するには、続けて  （子画面ボタン）を押します。
子画面（PiP）を非表示にする	 （子画面ボタン）を4回押したときに、子画面（PiP）が消えます。

ビデオまたは音声のミュート機能

ミュートを使用すると、ハンドセット、ヘッドセット、スピーカフォン、および外部マイクロフォンへのビデオ入力や音声入力が無効になります。ビデオミュートがオンになっている場合、コールの通信相手の映像は見えませんが、自分の映像は通信相手に見えません。音声ミュートがオンになっている場合、コールの通信相手の音声は聞こえますが、自分の音声は通信相手に聞こえません。ビデオミュートボタンとミュートボタンは、オフにしない限り、オンの状態が維持されます。

目的	操作
ビデオミュートをオンにする	 （ビデオミュートボタン）を押します。
ビデオミュートをオフにする	 （ビデオミュートボタン）を押します。
音声ミュートをオンにする	 （ミュートボタン）を押します。
音声ミュートをオフにする	 （ミュートボタン）を押します。

接続コールの転送

接続コールは転送によってリダイレクトされます。転送先は、コールの転送先となる電話番号です。

目的	操作
転送先の相手と会話せずにコールを転送する	接続コール中に、 Transfer を押し、転送先の電話番号を入力します。コールの呼出音が鳴ったときに、もう一度 Transfer を押しします。
転送先の相手と会話してからコールを転送する（「打診転送」）	接続コール中に、 Transfer を押し、転送先の電話番号を入力します。相手が応答するのを待ちます。相手がコールの転送を承諾した場合は、もう一度 Transfer を押しします。相手がコールの転送を拒否した場合は、 Resume を押して元のコールに戻ります。
現在の 2 つのコールを相互に転送する（「直接転送」）	その回線における任意のコールをスクロールして強調表示し、 Select を押しします。2 番目のコールに対しても同じ処理を行います。選択したコールの 1 つが強調表示されている状態で DirTrfr を押しします（必要に応じて、最初に more ソフトキーを押しします）。2 つのコールが相互に接続され、自分のコールは終了されます。 発信者との通信を継続する場合は、代わりに Join を使用して会議を作成します。詳細については、P. 28 の「会議コールの発信」を参照してください。

ヒント

- 保留状態のコールを転送できるのは、直接転送を使用する場合だけです。したがって、直接転送を使用しない場合は、**Resume** を押して、選択したコールの保留を解除してから転送します。
- コールを転送する際には、すべてのコールが同一の回線に存在することを確認してください。

会議コールの発信

会議コールでは、1つのコールに3名以上が同時に参加できます。Cisco IP Video Phone は、必要性和電話機の設定に応じて、いくつかのタイプの会議コールをサポートします。次のソフトキーによって、電話機で利用可能な機能が識別されます。

- **Confrn** : このソフトキーは、各参加者に個別にコールを発信することによって標準の会議を開催するときに使用します。標準の会議コールは、ほとんどの電話機で利用可能なデフォルトの機能です。
- **Join** : このソフトキーは、すでに1つの回線にある複数のコールの間で標準の会議コールを開催するときに使用します。
- **cBarge** : このソフトキーは、共有回線で標準の会議コールを開催するときに使用します。このオプション機能は、共有回線だけで利用可能であり、システム管理者に設定を依頼する必要があります。
- **Meet-Me** : このソフトキーは、指定の時間に参加者が既定の番号にコールする必要がある会議（設定によって異なりますが、参加者数は最大 100 名です）を開催するときに使用します。このオプション機能は、システム管理者に設定を依頼する必要があります。

標準の会議の開催と参加

標準の会議では、1つのコールに3名以上が参加できます。会議は、システム管理者が電話機を設定した方法に応じて、音声会議またはビデオ会議として設定されます。システム管理者は、表示されるビューの種類も設定します。**VidMode** ソフトキーを使用すると、ユーザは会議の音声起動型表示と連続的参加者表示を切り替えることができます。音声起動型表示では、発言中の人がフルスクリーンで表示されます。連続的参加者表示では、すべての参加者が同時にスクリーンに表示されます。

目的	操作
現在の発信者を標準の会議の参加者として追加する	1つの回線に2つ以上のコールがあるとき、その回線で任意のコールをスクロールして強調表示し、 Select を押します。会議に追加するすべてのコールについて、それぞれ同じ処理を行います。選択したコールのいずれかで、 Join を押します（必要に応じて、最初に more ソフトキーを押します）。選択したコールが自動的に会議に追加されます。選択したコールはすべて同一の回線に存在する必要があります。
参加者にコールを発信して標準の会議コールを開催する	接続コール中に、別の発信者をコールに追加するには、 Confrn を押します（必要に応じて、最初に more ソフトキーを押します）。会議の参加者の電話番号を入力します。コールが接続され、会議の参加者と会話した後、 Confrn をもう一度押して、この発信者をコールに追加します。この手順に従って、各参加者を追加していきます。

目的	操作
標準の会議への参加	呼出音が鳴ったら電話機に応答します。標準の会議コールに参加する場合、特別な操作は何も必要ありません。
共有回線を使用して標準の会議コールを開催する	共有回線でコール（リモートで使用中）を強調表示し、 cBarge を押します（必要に応じて、最初に more ソフトキーを押します）。詳細については、P. 34 の「共有回線について」を参照してください。
会議の参加者のリストを表示する	アクティブな会議を強調表示し、 ConfList を押します。会議に参加した順序に従って、参加者がリストに表示されます。最後に追加された参加者がリストの先頭になります。
会議の参加者のリストを更新する	会議の参加者のリストを表示している状態で、 Update を押します。
会議の開催者を確認する	会議の参加者のリストを表示している状態で、リストの末尾までスクロールして、会議の開催者（名前の横にアスタリスク（*）の付いた人物）を検索します。
会議の任意の参加者を削除する	参加者の名前を強調表示し、 Remove を押します。参加者を削除できるのは、会議コールの開催者だけです。
会議に最後に追加された参加者を削除する	会議の参加者のリストで、先頭にある参加者の名前を強調表示し、 Remove を押します。会議に最後に追加された参加者は、常にリストの先頭に表示されます。会議の参加者のリストを表示していない場合は、 RmLstC を押すだけです。参加者を削除できるのは、会議コールの開催者だけです。
標準の会議の終了	切断するか、または EndCall を押します。 切断しても会議が終了しない場合もあることに注意してください。 CallManager は Drop Ad Hoc Conference サービス パラメータ（デフォルトは Never ）に従って終了を指示しますが、管理者がこのパラメータを「 When Conference Creator Drops Out 」または「 When No OnNet Parties Remain In The Conference 」に設定していることがあります。

ヒント

- 標準の会議に参加するには、すべてのコールが同一の回線に存在する必要があります。すべてのコールが同一の回線に存在していない場合は、コールを同一の回線に転送してから会議に追加します。
- Join** の使用を試みたとき、「**No Participant Info**」というエラーメッセージが表示された場合は、アクティブなコールの他に少なくとも 1 つのコールを選択していることを確認してください（アクティブなコールは自動的に選択されます）。

ミーティングコールの開催または参加

標準の会議では、会議の開催者が参加者にコールする必要があります。これに対して、ミーティングコールでは、指定の時間に参加者がミーティング番号をダイヤルして会議コールに参加できます。ミーティングコールのオプションは特別な機能のため、システム管理者に設定を依頼します。


目的	操作
ミーティングを開催する	利用可能な場合は、 Meet-Me を押します (必要に応じて、最初に more ソフトキーを押します)。システム管理者から提供されたミーティング番号をダイヤルするか、またはヘルプ デスクにお問い合わせください。
ミーティングに参加する	会議の開催者から提供されたミーティング番号をダイヤルします。開催者が会議を開催していなければ、会議には参加できません。 Meet-Me ソフトキーは、開催された会議に参加するためには使用できません。
ミーティングを終了する	切断するか、または EndCall を押します。

別の電話番号へのコール転送

Call Forward All を使用すると、自分の Cisco IP Video Phone にかかってくる着信コールを別の電話番号にリダイレクトできます。Call Forward All は、プライマリ回線だけで使用できます。



(注) Call Forward All の転送先番号は、自分の電話機からダイヤルする場合とまったく同じ番号を入力します。たとえば、必要に応じて「9」などのアクセスコードや地域コードを入力します。

目的	操作
プライマリ回線のコール転送を設定する	CFwdALL を押し、転送先の電話番号を入力します。
プライマリ回線のコール転送をキャンセルする	CFwdALL を押します。
プライマリ回線のコール転送が有効になっているかどうかを確認する	ステータス行と回線のコールの状態を示すアイコンを確認します。コール転送が有効になっている場合、コールの転送先となる番号を示すメッセージがステータス行に表示され、  (コール転送アイコン) がプライマリ回線の上に表示されます。

ヒント

- 従来のアナログ電話機や別の IP ビデオ電話機にコールを転送することはできませんが、システム管理者がコール転送機能を社内の番号に制限している場合があります。
- この機能は回線ごとに設定する必要があります。コール転送が有効でない回線にコールがかかってきた場合、通常どおりコールの呼出音が鳴ります。